

## 日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程に係るFAQ

- ※1 本文中 【規則】 は、【公認野球規則】の事をいう。
- ※2 本文中 【規程】 は、【日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程】の事をいう。
- ※3 本文中 【解説（審判員用）】 は、【日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程の解説（審判員用）】の事をいう。

項番	見出し	質問	回答
1	計時開始のタイミング	<p>&lt;質問1&gt; 計時開始のタイミングで、『打者の打撃の準備ができたとき』【規程 I 3.(2)①③】とあるが、具体的な所作はどのようなものか。</p> <p>&lt;質問2&gt; 捕手がボールを保持したままブロックサインを出した。計時開始は、投手がボールを受け取ってからか。</p>	<p>&lt;回答1&gt; 打者がバッタースボックスの中に入り、足の位置を決め、投手の方に顔を向け、いつでも打撃姿勢がとれるよう準備が完了した時となります。</p> <p>&lt;回答2&gt; 【規則 5.07(c)(1)】に、『投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること』とあります。まずは、球審が速やかに投手に返球するようながします（注意）。規則の趣旨に反し、このうながしにも応じない場合、走者の有無にかかわらず、球審は無用な引き延ばし行為と判断すれば、2 塁塁審に計時のスタートを要求します。走者がいる場合、20 秒ルールを逃れようと意図的にキャッチャースボックス内で守備側のサイン交換を行っているとは判断すれば、「離脱」としてカウントすることとします。【規程 I.5(1)⑦】</p>

項番	見出し	質問	回答
			<p><u>【日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程】</u>  は、「JABA 全体で試合のスピードアップに取り組む」という方針に基づき策定したものです。審判員は、この行為がスピードアップ規程を出し抜く行為と判断した場合、大会主催者に対し、当該監督に注意するよう進言してください。</p>
2	計時再開のタイミング	<p>走者がいるとき、投手が軸足を投手板から外すことや、塁に偽投すること、または、捕手が同一打者の投球間（2球目以降）に守備のサインを送るためにキャッチャースボックスから離れた場合は、「離脱」【規程 I 5.(1)①③⑤】となり、20秒の計時はリセットされますが、計時を再開するのはいつか。</p>	<p>左記の場合、投手は既にボールを保持している状態ですので、直ちに計時が再開されることとなります。</p> <p>捕手が同一打者の投球間（2球目以降）に守備のサインを送るためにキャッチャースボックスから離れた場合は、捕手が元の位置に戻りはじめ、投手がボールを保持していれば、同じように直ちに計時は再開されます。</p>
3	投手が軸足を投手板から外す	<p>【規程 I 4.(2)】では、『投手が軸足を投手板から外したり、牽制球を投げたり、塁に偽投したりして、投手が投手板を離れたとき』に計時が終了すると書いてある。</p> <p>他方、【規程 I 6.(1)】では『走者がいないときは、投手が投手板を外す回数に制限はない。ただし、審判員がタイムを宣告した場合を除き、12秒の計時は継続される』とある。この二つの関係性はどのようなものか。</p>	<p>計時終了のときについては【規程 I 4.(2)】が原則ですが、走者がいない場合は【規程 I 6.(1)】が適用されます。</p> <p>走者がいないときは、投手は軸足を投手板から外す（「離脱」のうちの一つ）回数に制限はありませんが、その度に計時のリセットしては、スピードアップの観点から意味がないので、12秒の計時は継続されます。（リセットされない。）</p> <p>走者がいるときは、投手は同一打者が打席についている間、2回まで離脱（「軸足を投手板から外す」も含まれる）することが許され、その場合は、20秒の計時はリセットされます。</p> <p>【規定 I 4.(2)、6.(2)】</p>
4	「投球動作を開始」の判断	<p>走者が塁にいるとき、セットポジションからの投球では、ボールを両手で身体の前方に保持して、完全に動作を静止し</p>	<p>ワインドアップポジションからの投球動作の開始およびセットポジションにおけるボールを両手で体の前面で保持し、</p>

項番	見出し	質問	回答
		<p>てから投球動作開始【規則 5.07(a)(2)】になるが、走者がいない場合、完全静止する投手としない投手【規則 5.07(a)(2)原注】がいるが、「投球動作が開始されたとき」【規程 I 4.(1)】はどのように判断したらよいか。</p>	<p>動作を完全に静止した後の投球動作の開始を、それぞれ計時終了のタイミングとしています。左記の場合は、その投手が両手を体の前面で保持した後、打者に対して明らかに投球動作を開始したと判断したときが計時終了のタイミングとなります。</p>
5	計時終了のとき	<p>【規程 I 4.(4)】「その他、審判員のタイムが宣告され、ボールデッドとなったとき」の具体的な事例はどのようなものか。</p>	<p>例えば、守備側および攻撃側チームからの【社会人・大学共通スピードアップ規則】に基づくタイムの要求があった場合や、守備側および攻撃側プレーヤーによるタイムの要求を認めた場合等があげられます。</p>
6	警告回数等の選手、監督、控え審判等との共有	<p>&lt;質問1&gt;  【解説（審判員用）】には、『12 秒ルールの適用および 20 秒ルールの警告・違反を守備側監督に伝える必要がない』とありますが、控え審判員がいる場合は伝える必要があるか。</p> <p>&lt;質問2&gt;  「離脱」に該当する行為があった場合、お互いの審判員のシグナルを確認し合って、回数共有を図りますが、混乱を避ける為、投手にも共有した方が良くと思うが、いかがか。</p>	<p>&lt;回答1&gt;  試合のスピードアップを図る上で、ことさらにプレイの進行に支障のないよう対応していく必要があります。球審および計時する 2 塁塁審のシグナルにより、守備側監督（数人のコーチやマネージャーもベンチにいますので、仮に監督が審判員の警告を見落とししたとしても誰かが気づくはずです）は、その旨、理解できるものと考えています。  このことと同じ考え方から、控え審判員に警告したことを伝える必要はありません。</p> <p>&lt;回答2&gt;  上記と同じ考え方から、審判員が監督や選手に何らかのジェスチャーによる「伝達」をすることは省略したいと考えます。</p>

項番	見出し	質問	回答
7	<p>投手の離脱①</p> <p>「捕手がキャッチャースボックスから離れた場合」に関する具体的事例検証</p>	<p>&lt;質問1&gt;</p> <p>【規程 I 5. (1)⑤】『捕手が同一打者の投球間（2球目以降）に守備のサインを送るためにキャッチャースボックスから離れた場合』とは、キャッチャースボックスから前方または側方に捕手の両足が出た場合と考えてよいか。</p> <p>&lt;質問2&gt;</p> <p>走者がいるとき、新しい打者が打席に入る際に、捕手がキャッチャースボックスから離れてサインを出した。（「離脱」とみなされない【規程 I 5. (2)④】）その後捕手がキャッチャースボックス内で座った後に投手が離脱した。（1回カウントされる）打者に1球投球する前に再び捕手がキャッチャースボックスから離れてサインを出した場合、2球目以降ではないが、2回目の「離脱」としてカウントするのか。</p>	<p>&lt;回答1&gt;</p> <p>お見込みのとおりです。不用意にキャッチャースボックスから離れて、捕手が守備のサイン交換を行った場合にも、投手の離脱としてカウントすることになります。</p> <p>&lt;回答2&gt;</p> <p>左記の場合、投手が再び投手板についた後に捕手が再びキャッチャースボックスから離れてサインを出したのであれば、2回目の「離脱」としてカウントします。走者がいるとき、新しい打者が打席に入るときは、捕手が守備のサインを確認するためにキャッチャースボックスから離れた場合、「離脱」のカウントには数えない【規程 I 5.(2)④】こととなっていますが、すでにそのサイン交換を終えて、キャッチャースボックス内に座れば、それ以降、捕手が再びキャッチャースボックスから離れて、守備のサインを確認すれば、これは「離脱」のカウントとして数えることになります。</p> <p>ただし、一連の流れで捕手がキャッチャースボックスから離れるとともに、投手が投手板から離れた場合（または、その逆の場合）には、2つの行為で「1回」としてカウントします。</p>
8	<p>投手の離脱②</p>	<p>&lt;質問1&gt;</p> <p>投手が投手板に触れサインを確認後、ロージンバックに触</p>	<p>&lt;回答1&gt;</p> <p>お見込みのとおりです。【規程 I 5(1)①】</p>

項番	見出し	質問	回答
	<p>具体的な事例 検証</p>	<p>れるため軸足を投手板から外した。「離脱」としてカウントするか</p> <p>&lt;質問2&gt; 【規程 I 5.(1)④】『守備側チームがタイムを要求し、審判員がこれを認めてタイムを宣告した場合』の具体的な事例はどのようなものか。</p> <p>&lt;質問3&gt; 【規程 I 5.(1)⑦】『その他、審判員が上記に類似する行為を認めた場合』の具体的な事例はどのようなものか。</p> <p>&lt;質問4&gt; 【規程 I 5.(2)⑦】『その他、審判員が投手の離脱と認めない場合』の具体的な事例はどのようなものか。</p> <p>&lt;質問5&gt; 投手がスパイクの靴紐を結び直すために審判に「タイム」を要求した。これは「離脱」とみなされないのか。</p>	<p>&lt;回答2&gt; 守備側のプレーヤーがサイン交換によって、タイムの要求があり、これを審判員が認めた場合がこれに該当します。これは「離脱」として、カウントすることになります。</p> <p>&lt;回答3&gt; 12秒および20秒の計時がスタートできない状況（例えば、いつになっても捕手がボールを投手に返球しない、牽制球の後に野手が投手に返球しない）等で投手が投手板上につけない場合等があげられます。</p> <p>&lt;回答4&gt; 例えば、牽制球が行われたときにボークが宣告された場合や複数の走者がいて、アウトになった場合等はその牽制球における「離脱」の回数にはカウントしません。</p> <p>&lt;回答5&gt; 靴紐が緩んでいては、投球に支障があるので、【規程 I 5.(2)②】に該当するとみなし、「離脱」の回数にはカウントしません。</p>

項番	見出し	質問	回答
			<p>ただし、明らかに、間をおくために投手がタイムを要求したと球審が判断した場合は、【規程 I 5. (1) ④】を適用し、「離脱」とみなす場合もあります。</p>
9	<p>投手または監督が捕手を呼び寄せる行為</p>	<p>&lt;質問 1&gt; 監督等が捕手をベンチに呼び寄せ、指示を与えた場合、「トリップ」としてカウントするが、この行為は、投手の「離脱」としてカウントしないか。</p> <p>&lt;質問 2&gt; 投手が捕手とのサイン確認のため、捕手を呼び寄せた。「離脱」とみなされないのか</p>	<p>&lt;回答 1&gt; 【社会人・大学共通スピードアップ規則】の制限された回数範囲内でカウントするものについては、「離脱」のカウントには含まないこととします。【規程 I 5.(2)①】</p> <p>&lt;回答 2&gt; 上記&lt;回答 1&gt;に同じ</p>
10	<p>投手の離脱等の回数制限①  カウント途中で代打が出た場合</p>	<p>打者のカウント途中（2 球目）以降に代打が出た場合、元の打者に投手の「離脱」があっても、同一打者ではないので、「離脱」の回数はリセットするのか。【規程 I 6.(2)】</p>	<p>お見込みの通りです。【規程 I 6.(2)】のとおり、左記のケースでは代打者に交代した時点でそれまでの「離脱」のカウントはリセットされます。</p>
11	<p>投手の離脱等の回数制限②  カウント途中で投手が交代した場合</p>	<p>投手 A が打者 B に対し、走者がいるときに 1 回目の「離脱」があった。その後、投手 A から投手 C に交代となった場合（打者の交代はなし）、投手の離脱回数は、引き継がれるのかまたはリセットされるのか。</p>	<p>左記のケースのように、その投手が交代すれば、上記、打者が交代したケースと同様に「離脱」の回数はリセットされます。</p>

項番	見出し	質問	回答
12	<p>投手の離脱等の回数制限③</p> <p>具体的な事例 検証</p>	<p>&lt;質問1&gt; 塁に走者がいるとき、1回目の牽制球を投げた走者はすぐに戻ろうとしたが、アウトとなると思い2塁に走った。一塁手は二塁へ送球したが悪送球となりセーフとなった。「離脱」としてカウントするか。</p> <p>&lt;質問2&gt; 【解説（審判員用）6. 投手の離脱等の回数制限 例4】牽制球が悪送球になった場合の悪送球には、【規則6.02a〔規則説明1〕〔注〕】にある投手の送球を止め損じた野手のミスも含んでよいか。</p> <p>&lt;質問3&gt; 投手の「離脱」や走者が進塁するケースは牽制球が前提となっているが、投手板を踏んでいる状況で、1塁走者がスタートして投手が投手板を外した時には次塁に達していたり、投手板上から2塁に送球しようとしたが、走者が2塁直前だったので偽投となった場合、走者は進塁したが、投手は塁に送球していない。「離脱」としてカウントされないでよいか。</p> <p>&lt;質問4&gt; 走者1・3塁の事例のケース、1塁に牽制球後、1塁手がす</p>	<p>&lt;回答1&gt; 左記の場合、「離脱」のカウントはしません。【規程I.6(2)】のとおり、「走者が結果的に進塁できた場合」も「アウトにした場合、あるいはランダウンプレイとなった場合」と同様の対処となります。</p> <p>&lt;回答2&gt; お見込みのとおりです。この牽制球が「離脱」3回目以降にあたる場合、これが悪送球になることはもちろん、野手のミスプレイによって結果的にその走者が帰塁できてしまえば、アウトにできないことになるので、ボークとなって、走者は進塁できることとなります。</p> <p>&lt;回答3&gt; お見込みのとおりです。走者の進塁する行為があった場合、これが結果的に次の塁に達することができたのであれば、これによる投手の「離脱」としてカウントする必要はありません。【規程I 6. (2)】</p> <p>&lt;回答4&gt; 解説で想定している事例は、1塁への牽制球（1塁走者は</p>

項番	見出し	質問	回答
		<p>ぐに本塁に送球したが、本塁にスタートした 3 塁走者が、3 塁に戻ってセーフとなった場合はボークを適用する。</p> <p>次の場合はどうか。1・3 塁の走者双方が同時にスタート、牽制球を捕球した 1 塁手が本塁に送球の間に、1 塁走者は 2 塁に進塁した。3 塁走者は本塁へスタートしたが、ただちに 3 塁に戻ってセーフとなった。投手の牽制球の対象の 1 塁走者が 2 塁に進塁しているので、ボークを適用しないでよいか。</p>	<p>戻っている)の間に 3 塁走者が本塁に向かう姿勢を見せたが、直ちに 3 塁に戻った場合の事例です。ご質問の事例は、いわゆるダブルスチールと思われ、投球動作を開始する前の投手が、1 塁へ送球する行為は、走者をアウトにするための必要なプレイではないかと推測します。従って「離脱」にはカウントされず、3 回目以降である場合はボークとされません。</p>
13	<p>バッタースボックスルール① 警告の継続</p>	<p>打者 A が第一打席において 1 度目の警告を受け、続けて 2 度目の警告により、ストライクの宣告を受けた。その後の打席でこの警告はそのまま継続されるのか。</p>	<p>お見込みのとおりです。1 度目の警告を受けている打者は、その試合中において、それ以降、バッタースボックスルールの規程に違反した場合、そのつど、ペナルティ (ストライク) が宣告されることとなります。【規程 II.ペナルティ(1)・(2)】</p>
14	<p>バッタースボックスルール②  打者がバントをするふりをした場合</p>	<p>【規程 II(1)②】『バントをするふりをした場合』とは、両足をバッタースボックスにおいて、バントをするふりをしてバットを引く行為も該当するか。</p>	<p>【規則 5.04(b)(4)(vi)】の OBR 原文では、“The batter feints a bunt.” と記されています。実際にバントの行為によってバットにボールが当たらなかった場合、これは「空振り」となって「ストライク」が宣告されるので、空振りのケースと同様にみなされ、バッタースボックスルールにおける除外規程に該当し、打者はバッタースボックスから離れることができます。一方、バントの構えをしたが、ただ単にバットを引いて見逃した場合は、バッタースボックスから離れることはできません。</p> <p>また、明らかに単なるバントの空振りをする行為だけで、この除外規程を出し抜くものと審判員が判断した場合には、この除外規程にあてはめず、打者への警告およびペナルティ</p>



項番	見出し	質問	回答
15	バッターズボックスルール③  打者が空振りした場合の「計時開始のとき」との関係	<p>【<u>規程 I 3.(2)③a</u>】によると、<u>打者が空振りしてバランスを崩さなかった場合の「計時開始のとき」</u>は、「<u>投手がボールを受け取ったとき</u>」となるのか。</p>	<p>の適用がなされます。</p> <p>まず、打者が空振りをして<u>バランスを崩し、打席を離れた場合</u>、【<u>規程 I 3.(2)③a</u>】のとおり「<u>計時開始のとき</u>」は、『<u>投手がボールを所持し、打者が打席に入って打撃の準備ができたとき</u>』となります。</p> <p>また、打者は「空振り」した場合は、<u>バランスを崩したか崩さないかに関係なくバッターズボックスから離れることができます</u>。【<u>規程 II (1)①</u>】</p> <p>したがって、左記のように、打者が空振りによってバランスを崩さず、打席に留まっていたとしても、「計時開始のとき」は、『<u>投手がボールを所持し、打者が打席に入って打撃の準備ができたとき</u>』となります。</p>
16	打者の準備が遅れる場合	<p>&lt;質問 1 &gt;</p> <p>12 秒ルールの適用や、20 秒ルールの適用は、打者の準備が遅れることにより、投手が投球できないときでも適用するのか。</p> <p>走者がいる場合、捕手または他の野手からボールを投手が受け取ったときに 20 秒の計時がスタートするが、打者が攻撃のサイン確認に時間を要し、なかなか打撃の準備をとらない場合、投手は捕手とのサイン交換ができない。この場合、打者に責任があると思うが、投手にペナルティを課すのか？</p> <p>また、監督が打者にサインを出した後、打者がそのサインを確認するために球審にタイムを要求した場合、このタイム</p>	<p>&lt;回答 1 &gt;</p> <p>【<u>日本野球連盟（社会人野球）スピードアップ特別規程</u>】は、「<u>JABA 全体で試合のスピードアップに取り組む</u>」という方針に基づき策定したものです。打者が打撃姿勢をとらないで試合の進行を遅らせることや、そのことが原因で投手にペナルティを適用することは、この規程の趣旨に反します。</p> <p>実際の試合の中では、ほとんど 12 秒または 20 秒の後半になるまで打者が打撃姿勢をとっていない状況は生じていないことや、昨年実施したテスト大会（20 秒ルールは 1 回目から「ボール」を宣告）では、そのような事例は報告されていないことなどから、過度に心配する必要はないと考えます。</p>

項番	見出し	質問	回答
		<p>を認めざるを得ないが、何らかのペナルティはないのか。</p> <p>&lt;質問2&gt; MLBのマイナーリーグでは、打者にも時間制限が設けられており、ピッチクロックにおいて「残り9秒」までに打撃の準備を整えるよう求められている。上記のような事例を防ぐためにもJABAでは同様の制限は課さないのか。</p>	<p>ただし、走者の有無にかかわらず打者が打撃姿勢をとるのが遅かったり、走者がいるときに必要以上にサイン交換が長かったり、あるいは、打者が監督にもう一度サインを要求するジェスチャーをしたりして、12秒または20秒が経過するようであれば（または、審判員が投手は制限時間内に投球動作を開始することができないと判断した場合）、2塁塁審の「タイム」の宣告を受けて、または、球審の判断により、投手にペナルティ（1回目の「警告」または2回目以降の「ボール」の宣告）を課さないことができます。さらに、球審は必要に応じ、打者に対して【規則 5.04(b)(3)】によるペナルティ（「ストライク」の宣告）を適用し、その旨の警告を与えることとなります。また、攻撃側の監督にサイン交換を短くするよう警告することとします。</p> <p>なお、打者が監督のサインを確認するため、球審にタイムを要求した場合、そのタイムを認め、【社会人・大学共通スピードアップ規則 11.】の「攻撃側の話し合い」にカウントすることとします。</p> <p>&lt;回答2&gt; 打者に対する「バッタースボックスルール」の範囲内で打者には無用な打席からの離脱はできないことになっています。また、打席に入っている場合には速やかに打撃姿勢をとらなければなりません。【規則 5.04(b)(3)】</p>

項番	見出し	質問	回答
			<p>実際の試合の中では、ほとんど12秒または20秒の後半になるまで打者が打撃姿勢をとっていない状況は生じていないことから、現時点ではこれに関する計時の対象を設けないこととしました。</p> <p>ただ、無用に打席内で打撃姿勢をとらない打者に対しては上記の【規則 5.04(b)(3)】によるペナルティを適用し、その前にしかるべき警告を与える等の対応が必要です。</p>